



JB64W/JB74Wジムニー用サスペンション (ノーマルストロークタイプ)

240903OKB-5

NS5500S1-M

取扱説明書

本書を必ずお客様にお渡しください。

警告 はじめに必ずお読みください





この度はモンスタースポーツ製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
本書は、JB64W/JB74Wジムニー用サスペンションの取付け、取扱いの方法について記載してあります。
本製品を取付ける前に、最後まで必ずお読みください。

製品の適合車種 (本書の説明対象)

車種	型式	年式	駆動	品番	備考
ジムニー	JB64W	18.07～ (1型～)	4WD	510501-5500M	サスペンションセット
				520500-5500M	ハイトアップスプリングセット
				530501-5500M	ショックアブソーバーセット(STD)
ジムニー シエラ (3ドア)	JB74W	18.07～ (1型～)	4WD	510500-5600M	サスペンションセット
				520500-5600M	ハイトアップスプリングセット
				530501-5500M	ショックアブソーバーセット(STD)

本書の交換作業については、コイルスプリングおよびショックアブソーバー両方の交換について記してあります。
一方のみ交換・装着される場合は、予め必要な内容を理解された上で作業を進めてください。

本文中のマークの説明

 危険	死亡	事故		
 警告	重傷	故障		
 注意	軽傷	損傷	損害	
お願い	本来の性能が発揮できなかったり、故障や損傷に繋がる内容を示します。			
 アドバイス	参考情報や便利な内容を示します。			

目次

● 安全のために必ず守ってください (全般事項)	
・ 製品について	P. 2
・ 取付け作業について	P. 3
・ 締付トルクについて	P. 4
・ ご使用について	P. 4
● 製品の構成	P. 5
● 使用する工具について	P. 5
● 製品の取付けについて	
・ 取付け上の注意	P. 6
・ 取付け方法	P. 7
● 製品のご使用方法について	
・ 使用上の注意	P. 15
・ 減衰力の調整方法	P. 16
● お問い合わせ先	P. 16

安全のために必ず守ってください

本書は当商品に関する重要な内容が記されています。
誤った方法での取付け・取扱いには危険が伴いますので、必ず本書を一通り読み、内容をよくご理解頂いた上で取付け・取扱い頂けますようお願い申し上げます。

製品について(全般事項)

危険

- 本品の誤った使用方法、取付け方法は死亡、重傷などの人命に関する重大事故へつながります。安全には十分注意し、正しい使用方法、取付け方法を行ってください。
- 車両に装着されている安全装置(エアバック、ABS等)の取外し、もしくは改造を行わないでください。

警告

- 本品を加工して装着する事は絶対に行わないでください。
- 本品装着時、静粛性、耐久性が純正部品(標準部品)装着時に比べ、劣る事があります。

注意

- 販売店様にて取付けされた場合は、必ずお客様に本書をお渡しください。
- 本品に関する事故、または取付けに関する事故に関しましては、一切の責任を負いません。
- 本品のクレーム、返品については原則として応じかねます。
- 本品は純正部品(標準部品)とは別の扱いを受けるため、車両保証修理が受けられない場合がありますので、予めご了承ください。
- 本書並びに商品に付属の説明書類に記載の内容以外での取付け方法、取扱い方法にて使用されたものについては一切責任を負いません。
- パーツを譲渡・売買する際は必ず本書、並びに商品に付属の書類・付属品も一緒にお渡しください。
- 保安基準に基いて製作された商品でも、使用期間、条件、状態など、経年変化により保安基準に適合しなくなる場合がありますので、予めご了承ください。
- 取付ける前に、必ず製品品番と取付ける車種の確認を行い、また部品が全て揃っているか確認してください。
- 本品は改良等の為、予告無く変更、生産中止等を行う事があります。
- 純正部品(標準部品)と交換して装着するパーツ等、取付説明書が必要ないと考えられるパーツについては、本書並びにサービスマニュアル(整備解説書※ディーラーにて購入)を参考にして装着してください。また、それ以外で本書をお読み頂いた上で取付け方法にご不明な点が御座いましたら、作業前に弊社までお問合せください。

取付け作業について(全般事項)

危険

- ジャッキアップ・リフトアップする際は、平坦かつ頑丈な安定した地面にて行い、ぬかるみや傾斜は避けてください。また、必ずリジッドラック、ストッパー等の安全装置を使用し、下回りの安全を確保してください。
なお、部品や車種によってはガレージジャッキなどの使用をお薦めしないものもありますので、別途「取付け方法」に説明がある場合はそちらを参照してください。
- エンジンは停止させ、トランスミッションがニュートラル(MT)またはパーキング(AT)にあることを確認し、車両のサイドブレーキをかけて、キーを抜いてください。
- バッテリーショート防止のため、必ずバッテリーからマイナス端子を取外し、端子部を絶縁テープ等でマスキングしてください。ただし、むやみにバッテリーから端子を取外すと不具合を起こす車種もある為、事前にサービスマニュアルまたは車両の取扱説明書を確認してください。

警告

- パーツを装着する車両を障害物の無い(全てのドアを全開にした時、干渉するものが無い様に)屋内、または雨、風等が当たらない平らな場所に移動してください。
- 装着車両の熱をもった箇所の周辺を作業する場合は、熱が冷めるまで待機してから作業を開始してください。火傷する恐れがあります。
- 装着された部品が車両にしっかり装着され、ガタつき、異音、滑りなどが無いか確認し、異常がみられた場合は、一度部品を取外し、再度、取扱説明書、サービスマニュアル等を参考に取付け作業を行ってください。それでも改善されない場合は弊社または販売店までご連絡ください。
- 本品の取付けにあたり、法規上の「分解整備」に該当するような次の作業を伴う部品の交換、脱着が必要な場合は、分解整備事業の認証整備工場又は指定整備工場にて、自動車整備の資格を持つ方が作業を行ってください。また、使用者本人がその作業を行う場合は、自己責任のもと行い、点検整備記録簿にその作業内容を記載してください。

「分解整備」の作業例

- 1 原動機(エンジン・モーターなど)の脱着を伴う作業
- 2 動力伝達装置(クラッチ、トランスミッション、ドライブシャフト、プロペラシャフト、デファレンシャルなど)の脱着を伴う作業
- 3 走行装置(フロント・アクスル、リアアクスル、サスペンションアームなど)の脱着を伴う作業
- 4 かじ取り装置(ステアリングギヤボックス、リンクなど)の脱着を伴う作業
- 5 制動装置(ブレーキのマスターシリンダ、バルブ類、ホースライン、倍力装置、ブレーキ・チャンバ、ブレーキドラム、キャリパなど)の脱着を伴う作業
- 6 緩衝装置のシャシばね(板ばね)の脱着を伴う作業(コイルスプリング、ストラットASSY、ショックアブソーバーは除く)。
- 7 牽引用連結装置(トレーラー・ヒッチ、ボール・カップラを除く)の脱着を伴う作業

注意

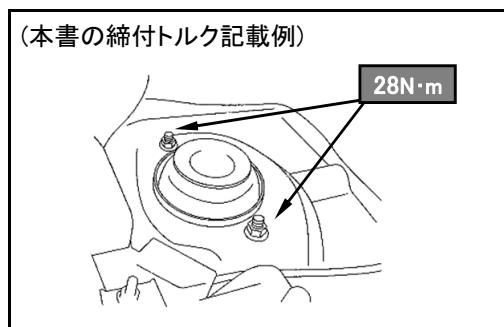
- 作業の際は作業用マットを用意して、構成部品をすべてマットの上に並べ、部品が全品揃っているか、また、汚れ、キズ、損傷等が無いことを確認してください。
- 商品の取扱いは落下したりキズがつかないように注意してください。破損の原因となる恐れがあります。
- 取付け完了後、残った部品が無い事を確認してください。

締付トルクについて

- 本書に指示のない箇所の締付トルクはサービスマニュアルの指定値に従ってください。
- 本書記載の締付トルク値の単位は[N・m]です。
トルク値の単位を読誤った場合、過剰トルクによる破損、トルク不足による緩み・ガタつきに繋がります。トルクレンチの目盛が[kgf・m]又は[kgf・cm]となっている場合は、下記を参考に換算してください。

＜参考＞ $1 \text{ [kgf} \cdot \text{m]} = 100 \text{ [kgf} \cdot \text{cm]} \div 9.81 \text{ [N} \cdot \text{m]}$

＜例＞



左記に記載の締付トルクをkgfに換算した場合

$$28 \text{ [N} \cdot \text{m]} \div 9.81 \approx 2.9 \text{ [kgf} \cdot \text{m]} = 290 \text{ [kgf} \cdot \text{cm]}$$

ご使用について(全般事項)

⚠ 危険

- 交換装着した部品は純正部品(標準部品)とは特性を変えて設定しており、また、追加装着した部品は装着位置、寸法、重量などの変化により、装着前の車両と運転感覚や特性が変化します。部品装着後の運行(特に装着直後)は十分に注意してください。
- 部品を装着後の運行で、車両の揺れや干渉物の衝撃等により、緩み、損傷等が発生する場合があります。必ず装着部品及び装着車両の部品装着部に異常が無い事を確認してください。
- 運行前の点検等で部品または部品装着部に異常がみられた場合は、速やかに部品を取付けた販売店、もしくは弊社にご相談ください。また、その異常が解消されるまで運行を中止してください。(異常な状態のままでの運行は大変危険ですので絶対にしないでください。)

⚠ 警告

- 装着部品の運行前点検、定期点検は使用者の責任で確実に行ってください。
- 装着部品及び車両の部品装着部は、その部品の使用目的と異なる使用を想定しておりませんので、そのような負荷がかかった場合(例: 部品に足をのせる、物をかける、荷重をかける等)、損傷の原因となります。装着部品の使用目的と異なる使用は絶対にしないでください。

⚠ 注意

- 競技では車両に大きな負担を与えます。部品の交換サイクルも短くなりますので、注意してくださ

製品の構成

お願い

取付け作業を開始する前に、必ずパーツリストで梱包物が全て揃っていることを確認してください。
欠品している場合は商品の購入先、または弊社までお問い合わせください。

製品構成					
サスペンションセット					
スプリングセット					
	品名	品番 [JB64W用]	品番 [JB74W用]	数量	チェック
1	コイルスプリング フロント (左右共通)	521100-5500M	521100-5600M	2本	
2	コイルスプリング リヤ (右)	525100-5500M	525100-5600M	1本	
3	コイルスプリング リヤ (左)	525105-5500M	525105-5600M	1本	
ショックアブソーバーセット					
	品名	品番		数量	チェック
4	ショックアブソーバー フロント	531100-5500M		2本	
5	ショックアブソーバー リヤ (STD長)	535100-5500M		2本	
6	ステッカー(ショックアブソーバー貼付け用)	-		4枚	
その他					
	品名	品番		数量	チェック
7	『取付け・取扱説明書』(本書)	-		1部	
8	『オートレベリングシステムの初期設定』	-		1部	

※『取扱説明書』等の書類は同一のものが重複する場合がありますがご容赦ください。

使用する工具について

- 本品の正しい取付けには、各種レンチ/ソケット、ジャッキ(リフト)、ドライバーなど、一般的な工具・設備以外に、下記の工具・設備が必要となります。

必要となる特殊な工具(専用工具)・設備

- ・スプリングコンプレッサー (状況に応じて要する) ※1
- ・スズキ診断ツール SUZUKI scan tool「SUZUKI-SDTII」または代替ツール ※2
- ・アライメント測定・調整ツール
- ・光軸測定・調整ツール

※1	※2		

製品の取付けについて

取付け上の注意



● ヘッドライトオートレベリングシステムの初期設定



純正HID/純正LEDヘッドライト装着車では、車の前後傾斜に応じて、自動でライトの高さを調整する自動調整装置「オートレベリングシステム」が装着されています。車高を計測するセンサがリヤのみに装着されている車両は、車高を変更するとリヤ荷重が増減した(車両前後傾斜が変わった)と判断され、光軸が自動的に下(または上)を向いてしまいます。このため、該当車両でサスペンションにより車高変化させた場合は、オートレベリングシステムの初期設定と光軸の再調整を行ってください。なお、オートレベリングシステムの有無に関らず、ローダウン後は必ず光軸を調整してください。

● ハイトセンサの破損防止要項 ヘッドライトオートレベリングシステム装着車

ヘッドライトオートレベリングシステム装着車の場合、コイルスプリングおよびショックアブソーバーを外す前にサービスマニュアルに従って、車高を計測するセンサ(ハイトセンサ)のリンク・ステーをフリーの状態にしてから作業を行ってください。
固定されたまま作業を行うと、センサが破損する恐れがあります。
また、リンクの取付け状態(ロッド・関節の可動方向・位置関係)に注意し元通りに装着してください。取付けを誤ると破損します。
なお、作業終了時にはセンサを元の状態に戻し、光軸調整を行ってください。程度によっては(センサがリヤのみに装着されている場合、または前後バランスを大きく変えた場合など)、オートレベリングシステムの初期設定も併せて行ってください。

● コイルスプリングに関して

① コイルスプリングの取付け位置・上下の向きを間違えないでください。

- 前後の判別は、コイルスプリングに記載されている品番で判別します。*(には英数字が入りま

○前輪用 521***-**** 523***-**** 524***-****

○後輪用 525***-**** 527***-**** 528***-****

- JB64W/JB74Wのリヤ側は左右で仕様が異なります。部品リストで左右の各品番を確認してください。
- 上下の判別は、コイルスプリングに記載されているロゴマーク又は品番の数字が正しく読める向きで上下が判別できます。

② コイルスプリング座巻の巻端位置(向き)を正しく合わせてください。

- コイルスプリング座巻の巻端(巻終わり)位置には指定がありますので、説明書通りに正しく取付けてください。
取付け状態が正しくない場合、コイルスプリングの座りが不安定になり、異音やその他不具合の原因となる恐れがあります。

③ コイルスプリング圧縮時(スプリングコンプレッサー使用時)の注意

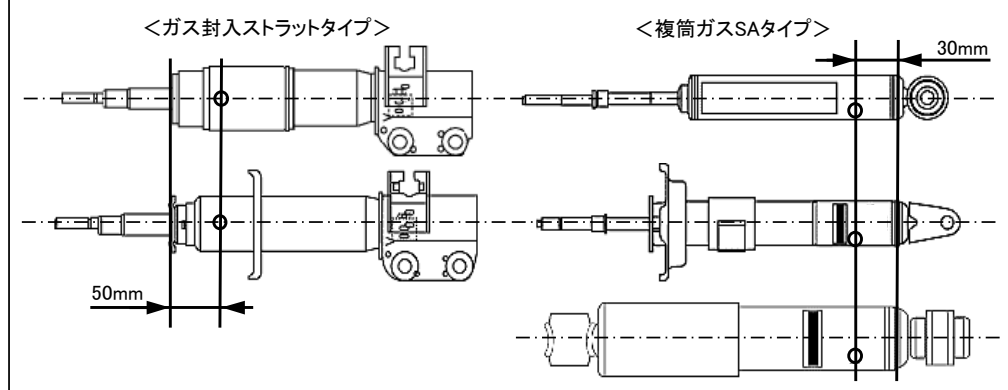
- ご使用のスプリングコンプレッサーの取扱い方法に従ってコイルスプリングを圧縮し、作業には十分注意してください。
- スプリングコンプレッサーの爪で引掛けるスパンが短い場合、コイルスプリングの性能が低下したり、スプリングコンプレッサーが破損する恐れがあり危険です。
可能な限り引掛けるスパン[巻数]を長く[多く]とってください。

● バンプクッション(バンブラバー)に関して

バンプクッション(バンブラバー)は指定するもの(オプション品、純正加工品など)、または付属のものを、指定の方法(加工方法・取付け方法など)にて必ずご使用ください。
特に指定が無い場合は、必ずノーマルのバンプクッションを無加工のまま装着してください。
指定するバンプクッションの使用を前提とした設計となっている為、万が一バンプクッションを指定通りの方法以外で使用された場合、製品の寿命を縮めたり、各部の干渉や破損が起こる恐れがあります。最悪の場合、ブレーキホースやABSセンサハーネスが破断する恐れがありますので、必ず指定の方法でご使用ください。

● ショックアブソーバーに関して

- ① ガスが封入されていますので、むやみに分解することは絶対に避けてください。また火中に投げたり、火や溶接の炎に近づけないでください。
- ② ピストンロッドトップナット(トップナット、セルフロックナット、ストラットアッパサポートナット等)脱着時にインパクトレンチを使用しないでください。破損の原因となります。
締付トルクは特に指定が無い場合、サービスマニュアル記載の指定トルクで行ってください。
- ③ ピストンロッドを工具で握ったり、取付ける際にキズをつけないでください。また、回転させないでください。オイル漏れや内部破損の原因となります。
- ④ 減衰力調整部は精密な為、落としたり傷つけたりしないよう十分に注意してください。
(減衰力調整機能があるショックアブソーバーの場合)
- ⑤ 廃却時は保護眼鏡着用の上、φ2~3mm径のドリルで下記位置に穴をあけ、ガスを抜いてください。



取付け方法

● 目次・手順

1.ジャッキ/リフトアップ	P. 8
2.フロントタイヤ・ホイールの取外し	P. 8
3.フロント周辺部品取外し (コイルスプリングを交換する場合)	P. 9
4.フロントコイルスプリング交換 (コイルスプリングを交換する場合)	P. 9
5.フロントショックアブソーバー交換 (ショックアブソーバーを交換する場合)	P. 10
6.フロント周辺部品取付け	P. 10
7.フロント各部ボルト・ナット本締め	P. 10
8.リヤタイヤ・ホイールの取外し	P. 11
9.リヤ周辺部品取外し (コイルスプリングを交換する場合)	P. 11
10.ハイトセンサのリンク取外し ※純正LED(オートレベリングシステム付)装着車	P. 11
11.リヤコイルスプリング取外し (コイルスプリングを交換する場合)	P. 12
12.リヤショックアブソーバー交換 (ショックアブソーバーを交換する場合)	P. 12
13.リヤブレーキホース&サイドブレーキワイヤクランプ取付け	P. 12
14.リヤ各部ボルト・ナット本締め	P. 13
15.ブレーキラインエア抜き (リヤコイルスプリング交換時にブレーキホースを取り外した場合)	P. 13
16.ハイトセンサのリンク取付け ※純正LED(オートレベリングシステム付)装着車	P. 13
17.タイヤ・ホイールの取付け、ホイールナットの締付け	P. 13
18.ホイールアライメントの調整	P. 14
19.光軸調整・オートレベリングシステムの初期設定	P. 14
20.走行確認	P. 14

以下の内容は本品に関する特記事項が中心となります。
その他記載の無い内容に関しては、対象車種のサービスマニュアルに従って行ってください。

1. ジャッキ/リフトアップ

- 1-1 ホイールナットを緩めます(まだ取外しません)。
- 1-2 車体をジャッキ(リフト)アップします。

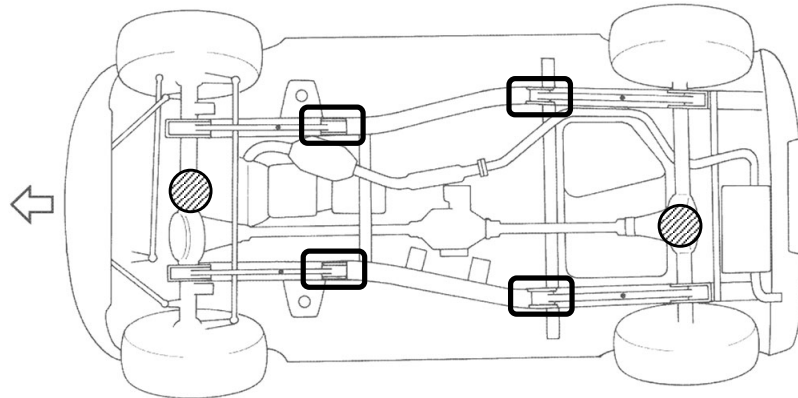
⚠ 危険

ジャッキアップまたはリフトアップは必ず水平かつ頑丈な凹凸の無い地面にて行い、周囲に障害物が無い事を確認してください。砂利などの場所では危険ですので絶対に行わないでください。
ジャッキにて作業を行う場合は、高い支持位置でも安定し、十分に許容耐荷重を満たしたリジッドラックにて確実に固定してください。ジャッキはストロークが大きく対応荷重を満たすフロアジャッキ(ガレージジャッキ)を用い、パンタグラフジャッキは絶対に使用しないでください。リフトを使用する場合は安全ストッパーを必ず使用してください。
各支持位置(ジャッキアップポイント/マウントポイント)は各車指定の箇所を確実に使用してください。指定と異なる箇所にて支持した場合、重大な事故に繋がります。また、リフトで作業する場合は、地面から少し浮いたところで安定度を確認してください。なお、エンジン脱着時やジャッキの種類によっては指示位置が異なる場合があります。

※詳細はサービスマニュアル又は車両の取扱説明書をご参照ください。

⚠ 危険

JB64W/JB74Wジムニーのサスペンションを交換する際、各アームをノーマルサスペンション脱着時よりも下げる必要がある場合やアームを交換する場合で、使用する設備の仕様によっては、自動車メーカー(スズキ株式会社)が指定しているマウントポイント(支持位置)以外の箇所を使用しなければならない場合があります。
その際は支持バランスの調整とすべり防止を慎重に管理しながら、フレーム/アクスル(ホーシング)の各部を、強度と作用する荷重を見極めながら、リフト/ジャッキ、リジッドラックを使い分けて作業を進めてください。
相応の経験と安全管理を要するため、実績のある整備業者様による作業を強く推奨します。



自動車メーカー指定マウントポイント



自動車メーカー指定ジャッキアップポイント

2. フロントタイヤ・ホイールの取外し

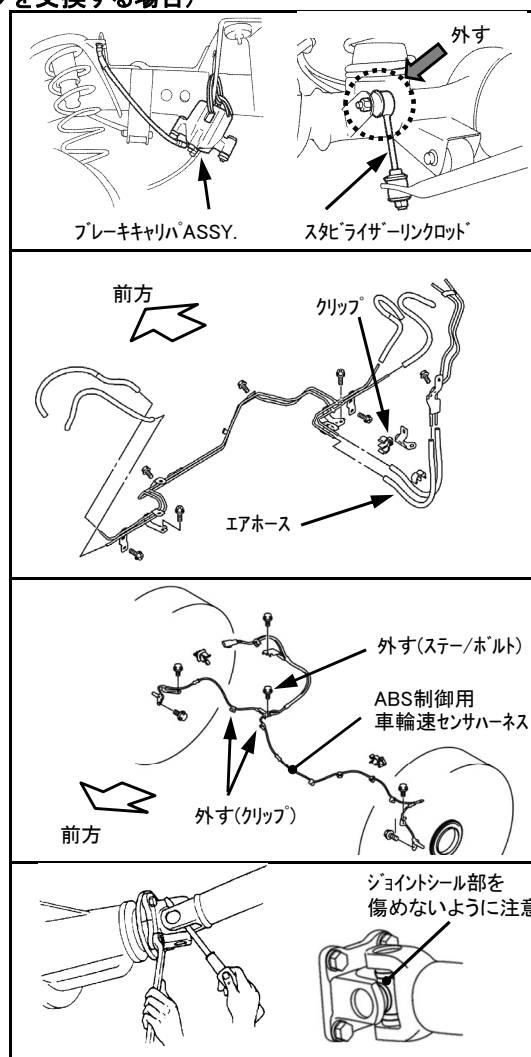
3.フロント周辺部品取外し（コイルスプリングを交換する場合）

- 3-1 ブレーキキャリパASSY.を取外してホースが引張られないように吊り下げおきます。
- 3-2 スタビライザーリンクロッドを、アクスル側固定ナットを緩めて外し、スタビライザーをフリー状態にします。
- 3-3 ロッキングハブ切替制御用のエアホースを取外し、作業中に引張りが生じないようにします。
- 3-4 ABS制御用車輪速センサハーネスをアクスルに固定しているボルトとクリップを外し、ハーネスに自由度を持たせます。
- 3-5 フロント側プロペラシャフトのジョイントを切離します。ジョイント部の合いマークを確認し、戻す際に合わせられるようにします。

⚠ 注意

ノーマルの取付け状態を確認しながら取外し作業を行ってください。元に戻す際に分かりやすいよう、必要に応じてマーキングするなどしてください。

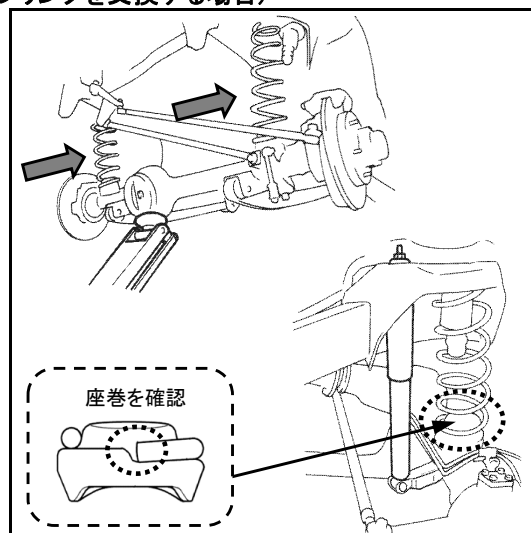
また、取外した部品は大切に保管してください。



4.フロントコイルスプリング交換（コイルスプリングを交換する場合）

- 4-1 アクスルをジャッキアップし、フロントショックアブソーバーを少し縮ませます。
- 4-2 ノーマルショックアブソーバー下側を外し、アクスルをジャッキダウンします。このとき、ホースやハーネスが引掛ったり、プロペラシャフトがフレームに干渉しないように慎重に行います。
- 4-3 ノーマルコイルスプリングを取外します。
- 4-4 装着するコイルスプリングを組付けます。
- 4-5 アクスルをジャッキアップし、ショックアブソーバー下側を固定します。

コイルスプリング上下の座巻がスプリングシートに正確に嵌っているか、下側座巻の端末位置が合っているかどうか確認してください。

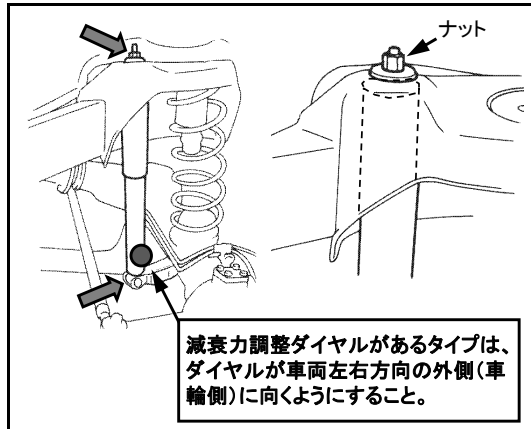


5.フロントショックアブソーバー交換（ショックアブソーバーを交換する場合）

- 5-1 アクスルをジャッキアップし、少しストロークさせてからボルトを緩め、ノーマルフロントショックアブソーバーを縮めながら取外します。
- 5-2 装着するショックアブソーバーの上側を車体へ固定します。
- 5-3 アクスル位置をジャッキで調整し、ショックアブソーバー下側を固定します。

⚠ 注意

ピストンロッドトップナット(ショックアブソーバートップナット)は再使用せず、新品を使用してください。
また、インパクトレンチによるピストンロッドトップナットの組付けは行わないでください。
オイル漏れ、内部破損等、様々な不具合の原因となり、最悪の場合、ピストンロッドが飛出す恐れがあり危険です。



6.フロント周辺部品取付け

- 6-1 作業「3.フロント周辺部品取外し」の逆の手順で部品を取付けていきます。
- 6-2 プロペラシャフトを組付ける際、切離す際に付けた合いマークに位相を合せて、ジョイント部を接続します。

7.フロント各部ボルト・ナット本締め

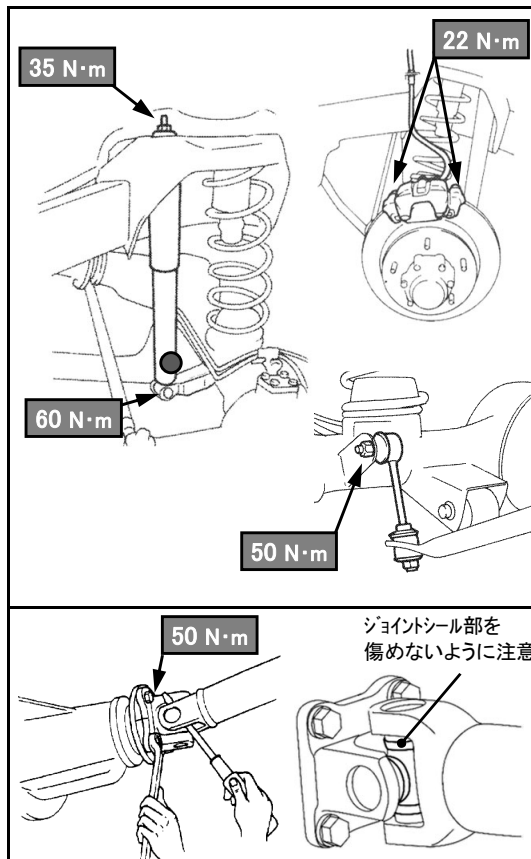
- 7-1 アクスルをジャッキアップし、サスペンションをなるべく接地時に近い状態にします。
- 7-2 各ボルト・ナットを指定トルクで締付けます。本書に記載の無い箇所はサービスマニュアルを参照してください。

⚠ 危険

ジャッキを操作する際、車体が持上がらないよう注意してください。転倒や落下など、大きな事故に繋がります。

🔧 アドバイス

サスペンションを持ち上げ、接地時に近い状態にすることで、締付けを確実に行うとともに、ボルトナットと取付穴の遊びによるアライメントへの影響を少なくします。
また、この状態で各サスペンションブッシュを一度緩めて締め直すことで、車高変化によるブッシュの振れを少なくできます。



8. リヤタイヤ・ホイールの取外し

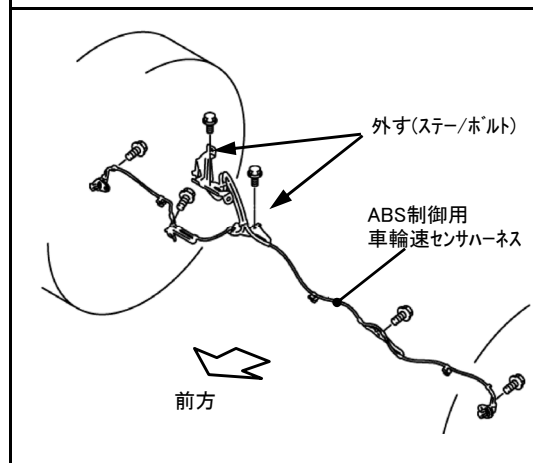
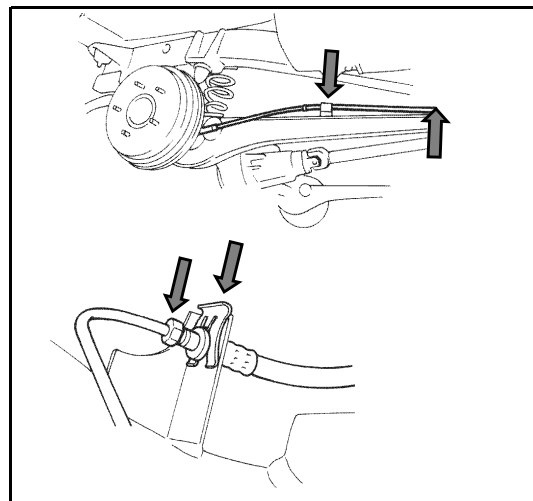
9. リヤ周辺部品取外し（コイルスプリングを交換する場合）

（コイルスプリングを交換する場合）

- 9-1 リヤトレーリングアームとフレームに固定されているサイドブレーキワイヤのクランプを外します。
- 9-2 必要に応じて、リヤブレーキホースを取外します。
ブレーキホースを外さずに作業を進める場合は、ブレーキホースのクランプを外した上で、スプリングコンプレッサーを用いてコイルスプリングを脱着してください。
- 9-3 後の作業中にブレーキ液が垂れてこないようにしてください。
- 9-2 ABS制御用車輪速センサハーネスを固定しているボルトを外し、アクスル側と車体側から放し、ハーネスに自由度を持たせます。

⚠ 危険

ブレーキ部品は安全に関わる重要な部品です。
正しく取付けられていない場合、製品に損傷がある場合は
重大事故に繋がります。
必ず整備資格のある作業者のもと、作業を行ってください。

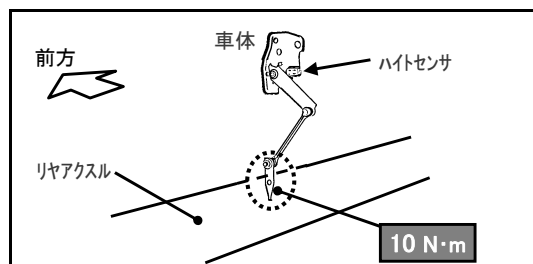


10. ハイトセンサのリンク取外し ※純正LED(オートレベリングシステム付)装着車

- 10-1 ハイトセンサの取付け状態、リンクの位置関係や可動方向を確認します。
- 10-2 トレーリングアームに固定されているボルトを外し、ハイトセンサのリンクをフリーにします。

⚠ 注意

ハイトセンサのリンクが固定されたまま、またはアーム等に引っ掛かったまま作業をした場合、センサが可動範囲を超えて破損したり、リンクやスレーが破損する恐れがあります。



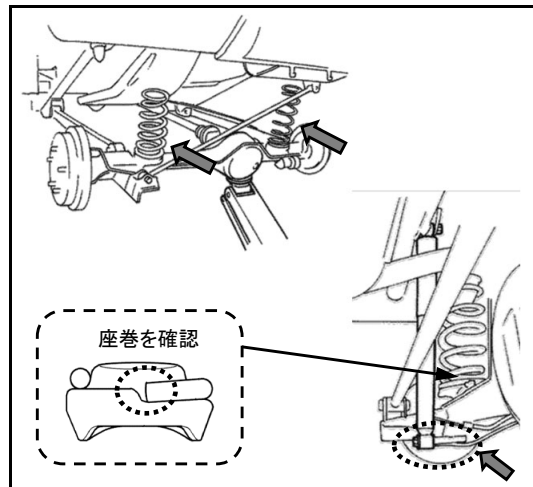
11. リヤコイルスプリング取外し (コイルスプリングを交換する場合)

- 11-1 アクスルをジャッキアップし、リヤショックアブソーバーを少し縮ませます。
- 11-2 ノーマルショックアブソーバー下側を外し、アクスルをジャッキダウンします。このとき、ホースやハーネスが引掛ったり、プロペラシャフトがフレームに干渉しないように慎重に行います。
- 11-3 ノーマルコイルスプリングを取外します。
- 11-4 装着するコイルスプリングを組付けます。
- 11-5 アクスルをジャッキアップし、ショックアブソーバー下側を固定します。
コイルスプリング上下の座巻がスプリングシートに正確に嵌っているか、下側座巻の端末位置が合っているかを確認してください

⚠ 注意

JB64W/JB74Wのリヤ側コイルスプリングは、左右で仕様が異なります。誤まって取付けると、車高や挙動、ジャッキアップ時のバランスが異常な状態になります。

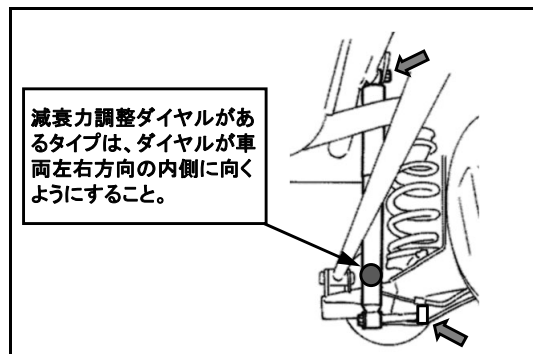
リヤ右側コイルスプリング: 自由長が長い
リヤ左側コイルスプリング: 自由長が短い



12. リヤショックアブソーバー交換 (ショックアブソーバーを交換する場合)

- 12-1 アクスルをジャッキアップし、少しストロークさせてからボルト/ナットを緩め、ノーマルリヤショックアブソーバーを縮めながら取外します。
- 12-2 装着するショックアブソーバーの上側を車体へ固定します。
- 12-3 アクスル位置ををジャッキで調整し、ショックアブソーバー下側を固定します。

減衰力調整ダイヤルがあるタイプは、ダイヤルが車両左右方向の内側に向くようにすること。

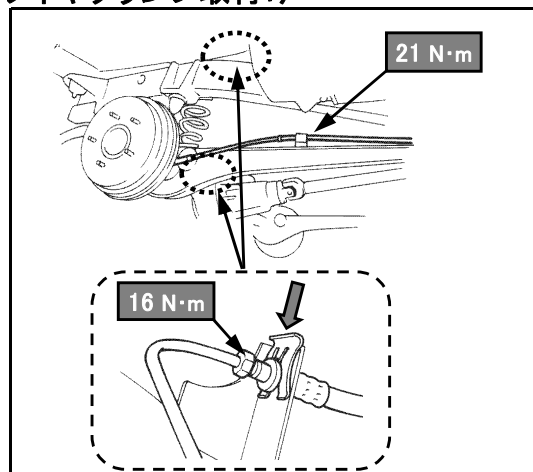


13. リヤブレーキホース&サイドブレーキワイヤクランプ取付け

- 13-1 リヤトレーリングアームへサイドブレーキワイヤーのクランプを取付けます。
- 13-2 リヤブレーキホースを取付けます。
サービスマニュアルを参照してください。
- 13-3 交換を終えたら周囲に付着したブレーキフルードを処理します。

⚠ 危険

ブレーキ部品は安全に関わる重要な部品です。正しく取付けられていない場合、製品に損傷がある場合は重大事故に繋がります。必ず整備資格のある作業の下、作業を行ってください。



14. リヤ各部ボルト・ナット本締め

14-1 アクスルをジャッキアップし、サスペンションをなるべく接地時に近い状態にします。

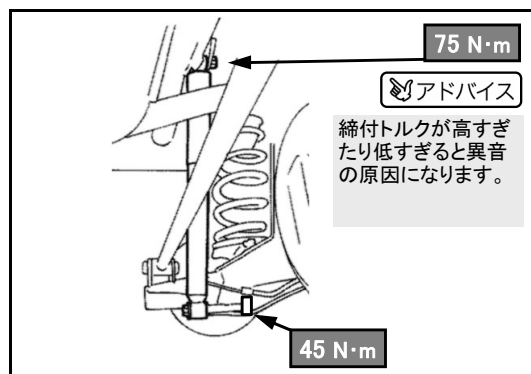
14-2 各ボルト・ナットを指定トルクで締付けます。
本書に記載の無い箇所はサービスマニュアルを参照してください。

⚠ 危険

ジャッキを操作する際、車体が持上がらないよう注意してください。転倒や落下など、大きな事故に繋がります。

🔧 アドバイス

サスペンションを持ち上げ、接地時に近い状態にすることで、締付けを確実に行うとともに、ボルトナットと取付穴の遊びによるアライメントへの影響を少なくします。
また、この状態で各サスペンションブッシュを一度緩めて締め直すことで、車高変化によるブッシュの振れを少なくできます。



15. ブレーキラインエア抜き (リヤコイルスプリング交換時にブレーキホースを取り外した場合)

15-1 サービスマニュアルに従い、ブレーキラインのエア抜きを行ってください。

15-2 エア抜き作業終了後、各部に液漏れや損傷が無いか確認します。

⚠ 危険

ブレーキ部品は安全に関わる重要な部品です。
正しく取付けられていない場合、製品に損傷がある場合は重大事故に繋がります。必ず整備資格のある作業者の下、作業を行ってください。

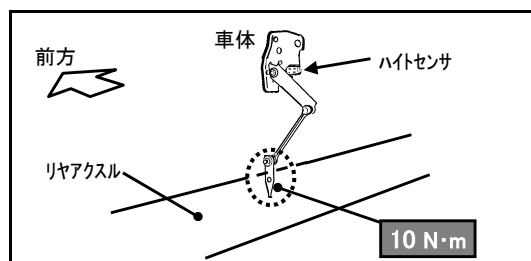
16. ハイトセンサのリンク取付け ※純正LED(オートレベリングシステム付)装着車

16-1 リヤサスペンションを少し縮めた状態にします。

16-2 ハイトセンサのリンクを元通りにセットし、固定ナットを締付けます。

⚠ 注意

ハイトセンサのステー・リンクが曲がりがないか確認してください。



17. タイヤ・ホイールの取付け、ホイールナットの締付け

17-1 タイヤ・ホイールを取付けます。

17-2 ジャッキ(リフト)ダウンします。周囲の安全を必ず確認してください。

17-3 ホイールナットを指定トルクで締付けます。

〈参考値〉 JB64W/JB74W ジムニー

純正ホイールナット締付トルク: 100 [N・m]

18.ホイールアライメントの調整

- 18-1 タイヤの空気圧を調整します。
 - 18-2 荷室などの積載物を降ろします。
 - 18-3 サスペンションを馴染ませます。
 - 18-4 水平な場所へ移動します。
 - 18-5 調整式ラテラルロッドの場合、前後ラテラルロッドの取付長を調整し、左右方向の車軸(アクスル/ホーシング)中心と車両中心のずれを調整します。
 - 18-6 ステアリングロッド長を調整し、ステアリングセンターを調整します。
 - 18-7 前輪のサイドスリップ(1名乗車時)を測定し、トー角を調整します。
 - 18-8 調整した各部のボルト・ナットの締付けが確実に行われているか確認します。
- 備考 しばらく走行した後、タイヤの磨耗状態を点検し、装着タイヤやその他条件に合った数値へ調整します。

⚠ 注意

車両や組み合わせるタイヤ/ホイールによっては、タイヤがフェンダーから突出する場合があります。突出した場合、保安基準を満たせません。その場合、調整式ラテラルロッドでロッド長を調整してください。

⚠ 注意

アライメントを調整しない場合、タイヤの偏磨耗や走行安定性の悪化などが生じる場合があります。

＜参考値＞ JB64W/JB74W ジムニー
フロント側標準アライメント(ノーマル車高)

サイドスリップ : 0 ~ IN 3 [mm/m]
トータルトー : IN 4 ± 2 [mm]

ステアリングタイロッド
ロックナット締付トルク : 65 [N・m]

🔧 アドバイス

ジムニーは重心が高い上、コイルスプリングが柔らかく左右で仕様が異なるため、前後左右の車高および車高変化量は均一にならず、僅かな路面の傾きや凹凸、荷物や燃料の積載状態、装着パーツ重量によって、各輪位置で車高が大きく変化する傾向があります。

また、ノーマル状態で前後左右間に車高差があり、車両の個体差によっても異なります。

トレーリング式サスペンションをもつオートマチック車両は、減速時よりフットブレーキを作動させたまま停車し、そのままサイドブレーキを作動させると、リヤ側車高が高くなる傾向があります。

19.光軸調整・オートレベリングシステムの初期設定

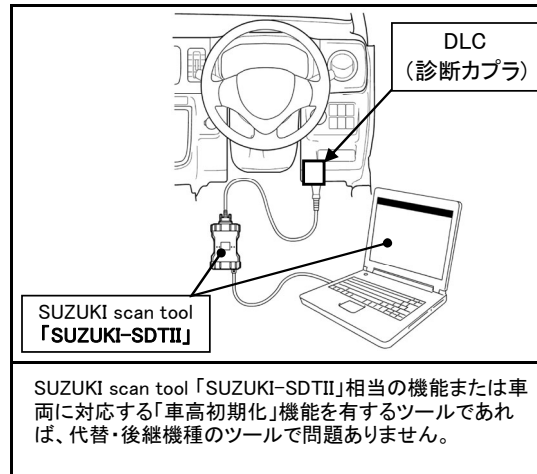
- 19-1 純正LEDヘッドライト(オートレベリングシステム付)装着車の場合、オートレベリングシステムの初期設定を行います。
サービスマニュアルおよび診断ツールのマニュアルを参照してください。

- 19-2 光軸調整を行います。

⚠ 注意

一般公道を走行する際は、道路運送車両の保安基準に定められた範囲に光軸を納める必要があります。

ヘッドライトオートレベリングシステムは、ヘッドライトの光軸を自動調整するためのものであるため、誤った取扱いをおこなうと、夜間等の走行時に適正な視界が確保できず危険です。



SUZUKI scan tool「SUZUKI-SDTII」相当の機能または車両に対応する「車高初期化」機能を有するツールであれば、代替・後継機種種のツールで問題ありません。

20.走行確認

- 20-1 各部品を馴染ませるようにゆっくり走行し、各部に異常な症状が無いか確認します。
- 20-2 走行後、各部に緩みや損傷が無い点検します。ゴムなどを介して締付けたりする部分は部品の馴染みにより緩みが生じることがあります。

⚠ 危険

装着前後で車両の挙動が大きく変化する場合がありますので、扱いに慣れるまで注意してください。
また、点検を怠った場合、ボルトナットが外れたり、部品が破損するなどして重大事故に至る恐れがあります。

製品のご使用方法について

使用上の注意

⚠ 危険

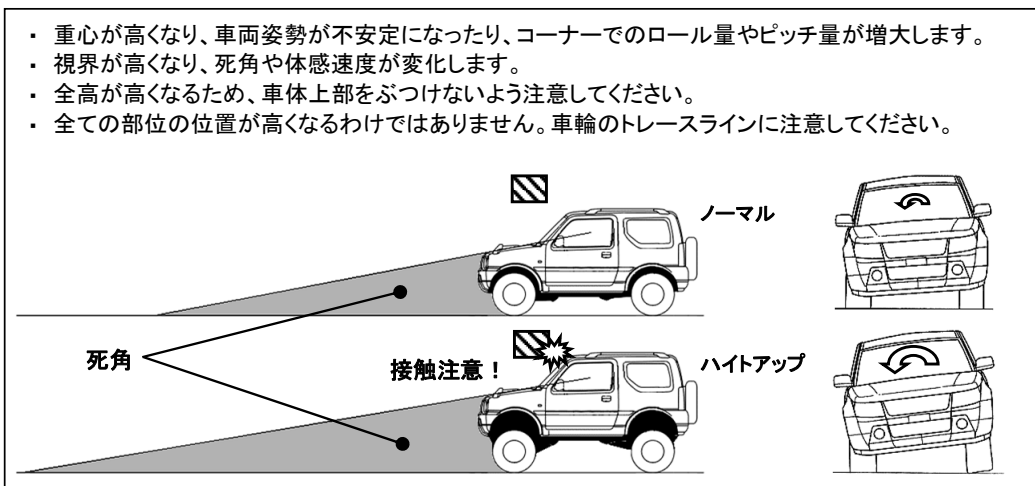
- 本品を装着すると走行特性が大きく変わる事がありますので、**取付け及び調整直後は急な操作を控え**、異常が無いか確認しながら慎重に運行してください。
また、誤った方法で使用されると危険が伴いますので、本書の内容をよくご理解いただいた上でご使用ください。
- 走行中、**異変を感じたら直ちに停車または徐行し**、最寄の修理工場、販売店、ロードサービスなどにて点検・検査を行ってください。
- 定期的な点検・調整を行い、各部の緩み・油漏れなどの異常がないか確認し、必要に応じて締付け・調整・清掃を行ってください。
- 車高を高くする部品を装着した場合、車両重心が高くなり、ノーマルに比べ横転(転倒)しやすくなります。

⚠ 警告

- 走行直後はブレーキの熱などで高温になる場所があるので、点検等は冷めてから行ってください。
- 装着したマフラーの配管がコイルスプリングに近いときや、故意に熱を加えるとへたります。

⚠ 注意

- 一般に、車高が上がる場合、車高変化によって車両特性が次のように変化します。



- 車高変化に比例して**アライメントが変化します**ので、車高変化量、タイヤサイズ、車両重量、その他使用条件によっては、**タイヤに偏磨耗が生ずる**場合があります。

※ 発生リスクを最小限に抑えるため、下記のメンテナンスをお願いします。

- ・ 車高変化に応じて、トー(トーイン)を適正な値に再調整してください。
- ・ 調整可能な車種の場合はキャスター、キャンバーなど、アライメントを調整してください。
- ・ タイヤの空気圧を常に適正管理してください。
- ・ 適正サイズのタイヤを装着してください。
(極端なワイドタイヤは、偏磨耗の度合いが顕著に現れます)

⚠ 注意

- **前後左右の車高は、mm単位で完全にはなりません。**
多くの場合、ノーマル状態で前後左右間に車高差があり、車両の個体差によっても異なります。
前後左右の車高および車高変化量は均一にならず、僅かな路面の傾きや凹凸、荷物や燃料の積載状態、装着パーツ重量によって、各輪位置で車高が変化する傾向があります。

※ 本製品の装着後、極端に車高差が大きい場合は、スプリング品番、及び取付け状態の再確認をお願いします。また、駐車場の傾き、積載した荷物の量や位置によっても車高が変化します。
※ トレーリング式サスペンションをもつオートマチック車両は、減速時よりフットブレーキを作動させたまま停車し、そのままサイドブレーキを作動させると、リヤ側車高が高くなる傾向があります。

- ラテラルロッドが装着されている構造のサスペンションは、**車高変化に伴い、車軸全体が左右に移動する場合があります。**
ノーマル状態でも左右均等ではありませんので、20～25mm程度の車高変化であれば、差し障りありません。
ジムニーで車高を上げる場合は、タイヤ・ホイールがフェンダーから突出したり、操縦安定性が悪化する場合があります。その場合は、調整式ラテラルロッド、または相当する補正部品を併用してください。

※ 乗車人員や積載物の有無、燃料残量などで、ノーマル車でも車高は相当量変化します。

- トランスファーとデファレンシャルの距離が伸び、プロペラシャフトの取付け角度が大きくなります。同じ回転数でも、ジョイントシャフトにはノーマルよりも負担がかかっていますので、点検は頻繁に実施してください。
サスペンションの支持部にも負担がかかりますので、点検を実施し、変形や損傷がある場合は交換してください。
- 本品はノーマルサスペンションへのボルトオン装着・交換および指定オプションパーツ装着を前提に設計されています。キャスト角補正パーツ等、他の補正パーツ(ラテラルロッドを除く)と併用した場合、各部の干渉や想定外の不具合が生じる恐れがあります。
- 各種カメラセンサーおよびセンシングレーダーの作動、衝突被害軽減ブレーキや誤発進抑制機能の制御などについて、本品装着に伴う影響は考慮していません。車高変化に伴い、各車両挙動における車両姿勢やレーダーの照射範囲、カメラの認識範囲などがノーマル車両より変化することで、状況によっては制御や作動に影響が出る可能性があります。

減衰力の調整方法（減衰力調整式ショックアブソーバーのみ）

ダイヤルを回して「カチッ」と音がしたところにセットしてください。向きはどちらに回しても問題ありません。

▼マーク位置にある番号がセットされた番数を指します。

1（ソフト） ⇄ 14（ハード）

⚠ 危険

左右の減衰力は必ず同じ位置に合わせてください。不安定な挙動になり事故に至る恐れがあります。

【お問い合わせ先】モンスタースポーツ事業部

〒438-0203 静岡県磐田市平間1438 [TEL] 0538-66-6761 / [FAX] 0538-66-7583

WWW.MONSTER-SPORT.COM